



図 21.10 脂腺増殖症 (sebaceous hyperplasia)

図 21.11 脂腺腫 (sebaceoma)  
黄色調のドーム状に隆起する小結節。

し扁平な小結節 (図 21.10)。複数個生じることが多い。中心<sup>さいか</sup>臍窩を有し、ときに中央から皮脂を排出する。

## 2. 脂腺腺腫 sebaceous adenoma

中高年の顔面、頭皮に好発する黄色調の結節および腫瘤。病理組織学的に脂腺分化を示す良性腫瘍である。

## 3. 脂腺腫 (脂腺上皮腫) sebaceoma (sebaceous epithelioma)

顔面や頭皮に生じるドーム状あるいは有茎性の結節 (図 21.11)。黄色調を呈することもある。病理組織学的に、基底細胞様の腫瘍細胞の増殖を認める。未分化な細胞がみられるなか、一部で脂腺細胞や導管への分化を認める。

## D. 汗腺系腫瘍 sweat gland tumors



図 21.12 エクリン汗嚢腫 (eccrine hidrocystoma)

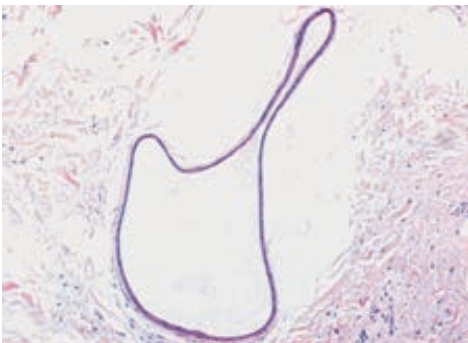


図 21.13 エクリン汗嚢腫の病理組織像

## 1. エクリン汗嚢腫 eccrine hidrocystoma

顔面に単発、ときに多発する、直径 2～3 mm の常色～青色調の半透明小結節 (図 21.12)。多発する症例では夏季に増加、冬季に減少する傾向がある。エクリン汗腺の真皮内導管が拡張、嚢腫化したものと考えられる (図 21.13)。断頭分泌はみられない。針で穿刺すると汗の貯留が確認される。

## 2. 汗管腫 syringoma

### 症状

エクリン汗腺の真皮内導管が限局性に増殖した結果、直径 1～3 mm 大の正常皮膚色の扁平隆起性および小丘疹が多発する。眼瞼部に好発し、体幹に播種状に認められることや融合傾向を示すこともある (図 21.14)。女性に多く、汗の分泌量が増加する思春期に目立つ。自覚症状はないが、自然消退することもほとんどない。

### 病理所見

真皮上～中層に、大小の管腔構造と索状構造がみられる。管



図 21.14 汗管腫 (syringoma)

a: 眼瞼に多発する 2~5 mm 大の扁平隆起性小丘疹. b: 額部. c: 腋窩に多発, 融合して大きな局面を形成している. d: 前胸部. e: 顔面に多発. 一部融合.

腔の一端に, 短い尾のような上皮索をつける特徴的な像 [オタマジヤクシ様 (tadpole-like) またはコンマ状 (comma tail)] を呈する. 管腔は 2 層の壁細胞からなり, 周囲に結合組織の増殖をみる (図 21.15). 壁細胞の胞体が明るくみえるものを透明細胞汗管腫 (clear cell syringoma) といい, 糖尿病を合併することがある.

**鑑別診断**

臨床的に顔面播種性粟粒性狼瘡<sup>せきりゅうろうそう</sup>, 稗粒腫, 血管線維腫, エクリン汗嚢腫などとの鑑別を要する.

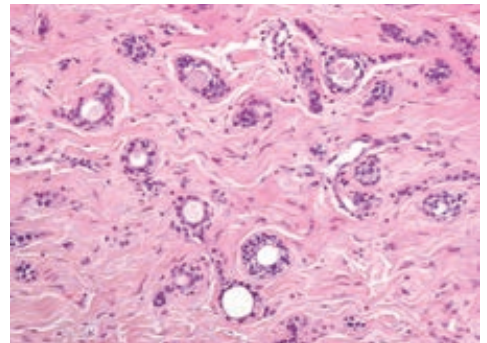




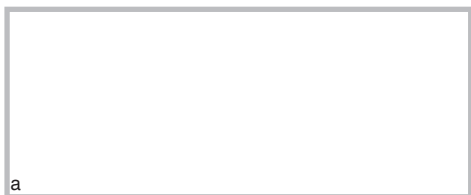
図 21.15 汗管腫の病理組織像

本症にきわめて特徴的なオタマジヤクシ様, またはコンマ状の腫瘍細胞塊から形成されている.

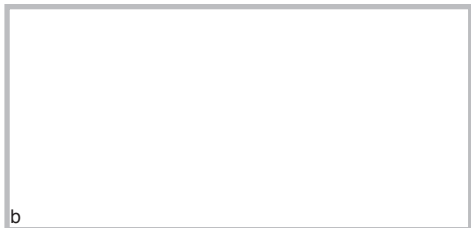
汗腺由来の腺腫の分類

MEMO 



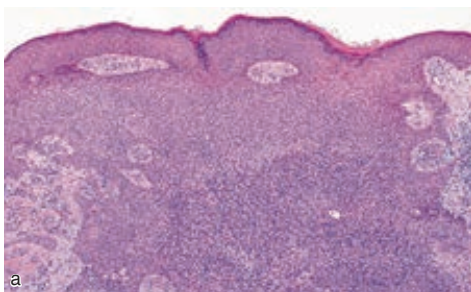


a

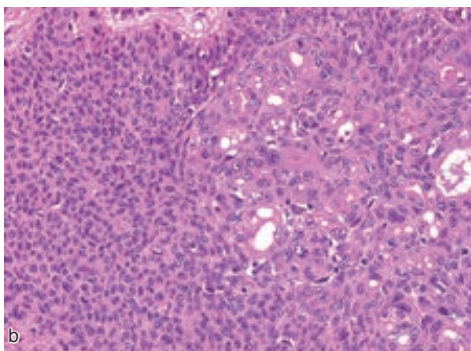


b

図 21.16 エクリン汗孔腫 (eccrine poroma)  
暗赤色有莖性 (a) および広基性 (b) の小結節。



a



b

図 21.17 エクリン汗孔腫の病理組織像  
a: 表皮と連続する腫瘍細胞。b: クチクラ細胞の領域 (右側) では小管腔の形成がみられる。同部位に軽度の核異型 (Bowen 様変化) がある。

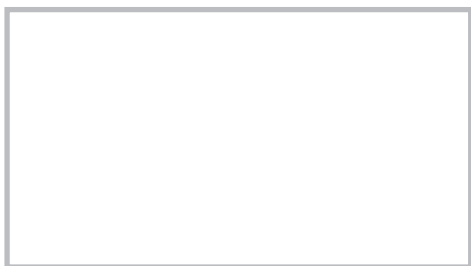


図 21.18 らせん腺腫 (spiradenoma)

### 治療

自覚症状がなく悪性化もないため通常治療は必要としない。整容的に問題がある場合は、炭酸ガスレーザー療法や凍結療法、ケミカルピーリングなどが行われる。

## 3. エクリン汗孔腫 eccrine poroma

### 定義・症状

エクリン汗腺の表皮内導管由来の良性腫瘍である。広基性または有莖性の小結節で、暗赤色で易出血性を示すのが特徴であるが、とくに足底や手掌に好発する (図 21.16)。臨床的に、化膿性肉芽腫、母斑細胞母斑や無色素性悪性黒色腫と鑑別を要する場合がある。

### 病理所見

連続性に表皮から真皮内へ腫瘍細胞 (poroid cell) の増殖巣を認め、その中では好酸性の細胞が小管腔を形成する [クチクラ細胞 (cuticular cell), 図 21.17]。腫瘍細胞は多量のグリコーゲンを含む。一部の領域で Bowen 病 (22 章 p.451) に類似した多核細胞や軽度の核異型を伴うことがある。

### 治療

まれに悪性化 [エクリン汗孔癌 (eccrine porocarcinoma, 22 章 p.458 参照)] するため外科的に切除する。

## 4. らせん腺腫 spiradenoma

類義語: エクリンらせん腺腫 (eccrine spiradenoma)

主にエクリン汗腺の真皮内導管および腺細胞への分化を示す良性腫瘍である。顔面、頸部、体幹、上肢に単発する直径 1 ~ 2 cm の境界明瞭な硬い皮内および皮下結節。表面は正常皮膚色または青色で、自発痛や圧痛を伴うことが特徴である (図 21.18)。病理組織学的には、大型明調細胞と小型暗調細胞が柵状および塊状に増殖し、管腔構造を形成する。

## 5. 乳頭状エクリン腺腫 papillary eccrine adenoma

四肢に好発し、直径 1 ~ 3 cm 大の小結節が単発する。病理組織学的に、種々の大きさの囊腫構造と、上皮細胞の内腔への乳頭状増殖を認める。断頭分泌はみられない。エクリン汗管に